

各教科等における 「令和3年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、各教科の学習を「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。また、徳島県GIGAスクール構想の展開を踏まえ、各教科等の特質・内容に合わせて1人1台端末を活用し、「個別最適な学び」「教科等の学びの深化」「教科等横断的な学び」を実現します。

徳島県教育委員会では、こうしたことを踏まえ、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿の実現を図ります。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

- 生きて働く知識・技能
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等

すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント (国語力向上タスクフォースの提案から)

本県の児童生徒に身に付けさせたい力

- ・ 文章の中心的部分と付加的部分、問題提起の部分と具体例、まとめの部分などを読み分けて要旨を捉えたり、問いの意図やその解決に至る経緯を正しく理解したりする力
- ・ 目的に応じて必要な情報を集めるための見通しをもって臨み、根拠として取り上げている内容が適切であるかどうかを吟味したり、また、その根拠が適切であるか理由が明確になるように自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりする力
- ・ 相手の意図を捉えたりしながら自分の考えを明確にもち、その考えを深めるために、場に応じた適切な言葉遣いで話したり、書いたりしながら、互いに伝え合う力

正確に読み取らせるには！！

- 問題提起の部分や重要な部分などをアンダーラインや丸で囲ませよう。



主体的・対話的で深い学びの視点からは！！

- 自分の思いや考えを「書く」場面を増やそう！
- 自分の思いや考えを深めるために他者の意見を取り入れる場面を増やそう！
- 学んだことを振り返る場面を工夫しよう！

深い学びにつながる三つの発問は！！

- 別の言葉に言い換えてみよう。
- 比べてみよう。関連づけてみよう。
- そう考えた根拠と理由は何だろう。



目指す子供の姿

- 生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
- 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
- よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①実践的・体験的な活動の充実

- ◇直接体験することにより、知識及び技能の習得、基本的な概念の理解などを確かなものにする学習活動を充実する。
- ◇実践的・体験的な活動を中心とし、生徒が学習の中で習得した知識及び技能を生活の場で生かせるよう、生徒の実態を踏まえた具体的な学習活動を設定する。

②問題解決的な学習の充実

- ◇3学年間の指導計画の中で、育成を目指す資質・能力を明確にし、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けられる題材を設定する。
- ◇生活や社会の中から問題を見いだして、課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりする学習活動を設定する。
- ◇生徒が、自ら設定した課題の解決に向けて、課題の解決方法の検討や解決に向けた実践活動において、他者と協働しながら解決の見通しをもって粘り強く取り組むことができる学習過程を計画的に組み立てる。